フロンティアスクール用報告書

都道府県名	広島県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	向原町立向原小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	１	１	１	１	２	１	１	８	１５
児童数	２６	２９	３４	３６	４５	３３	１	２０４	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

学びの力を育成する指導のあり方
～国語科・算数科における指導体制・指導方法の工夫を通して～

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・　全学年の国語科及び算数科
これまでの研究成果を引き継ぎ，学力向上に向けた取り組みを推進していこうと考えたため。

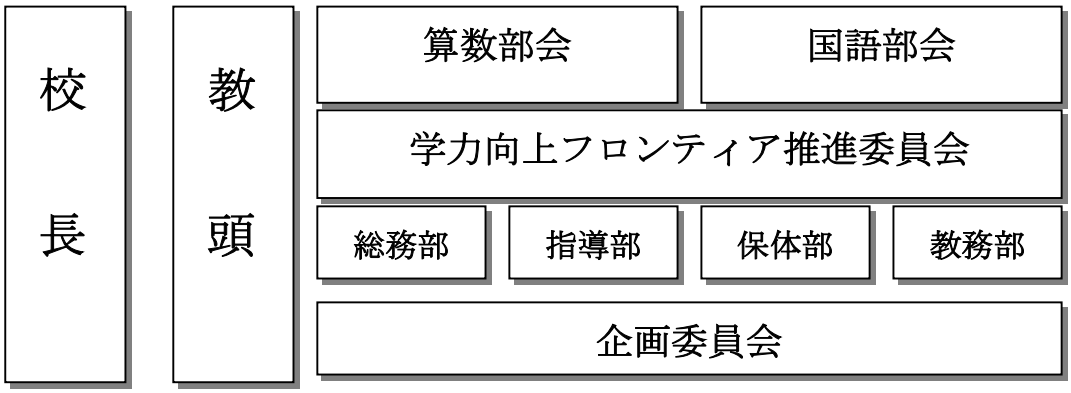
(2)　年次ごとの計画

平成14年度	○　テーマ 「基礎・基本の定着を図り，学ぶ意欲を高める指導のあり方」 ～個に応じた指導方法の工夫～ ○　研究の見通し（仮説） 算数科・国語科において，個に応じた学習の場を構成し，達成感や次への期待感を持たせる指導のあり方を工夫すれば，基礎・基本の定着を促し，子どもの学ぶ意欲を高めることができるであろう。 ○　研究の内容・方法 （１）個に応じた「わかる授業」作りの場を工夫する。 （算数科・国語科の授業において，少人数指導等を積極的に実施） （２）やる気を育てる指導のあり方を工夫する。 （帯タイムの成果や自己評価カード記述による自己肯定感の育成） （３）学習の効果を高める学習習慣の確立を図る。 （立腰を中心とした姿勢指導や全学年統一の話形指導，指導者の自己評価・相互評価の実施）

平成15年度	○　テーマ 「学びの力を育成する指導のあり方」 ～国語科・算数科における指導体制・指導方法の工夫を通して～ ○　研究の見通し 国語科，算数科において習熟度別指導を展開し，個に応じたきめ細かな学習をすすめ，書くことを取り入れた自力解決の場を設定すれば，一人ひとりがめあてをもって学習に取り組むことができ，基礎・基本を身に付け，自ら考え学ぼうとする力を育てることができるであろう。 ○　研究の内容・方法 （１）個に応じた分かる授業のあり方を工夫する。 （国語科・算数科における習熟度別指導の積極的な導入と，その基本展開の確立） （２）書くことを取り入れた自力解決の場を設定する。 （あらゆる場面で『書く』ことによる思考の深化・拡充） ※ 個に応じた指導をより効果的に進め，自力解決の力を高めていくため，研究の見通しを見直し，それに伴い研究の内容・方法を変更した。

平成16年度	○　テーマ 「学びの力を育成する指導のあり方」 ～すじ道を立てて考える力の育成を通して～ ○　研究の見通し 国語科，算数科において個に応じたきめ細かな学習を進め，すじ道を立てて考える力を育てていくための指導方法を工夫すれば，基礎・基本を身に付け，自らの力で課題を解決していく力を育てることができるであろう。 ○　研究の内容・方法 （１）すじ道を立てて考える力を育てる授業のあり方を工夫する。 （『つかむ』⇨『関係付ける』の授業展開の確立） （２）個に応じた分かる授業のあり方を工夫する。 （指導体制・指導方法の更なる充実）

(3)　研究推進体制



※資料１　チャレンジプラン

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．　研究の成果

成果・１

○一人一人の学習課題に応じた学習（習熟度別指導等）を進めたことにより，児童の課題意識や集中力が高まり，自ら学ぼうとする姿勢が見られるようになった。

（１）本校における少人数指導

児童実態

本校の児童の学力実態は，一部の学級において個人間で大きな較差が見られ，基礎的・基本的内容が十分定着したとは言えない状況がある。児童の学習意欲を高めながら，基礎的な学習内容の定着を目指す取組みを確実に進めなければ個々の学力向上を図ることは困難である。

取り組み

昨年度から指導体制を工夫し，「**少人数指導**」を積極的に導入することにより，個に応じた指導の充実を図ろうと考えた。なかでも，**習熟の程度に応じた指導**を効果的に取り入れることを通して，基礎・基本の確実な定着を図るとともに，発展的な学習にも対応できるような多彩な学習を展開しながら，学習意欲を高める指導方法の改善にも併せて取り組んできた。

指導のポイント

1．指導者が協同して，それぞれの学習場面にふさわしい指導組織を構成し，それぞれの専門性を生かして組織的に指導にあたる。

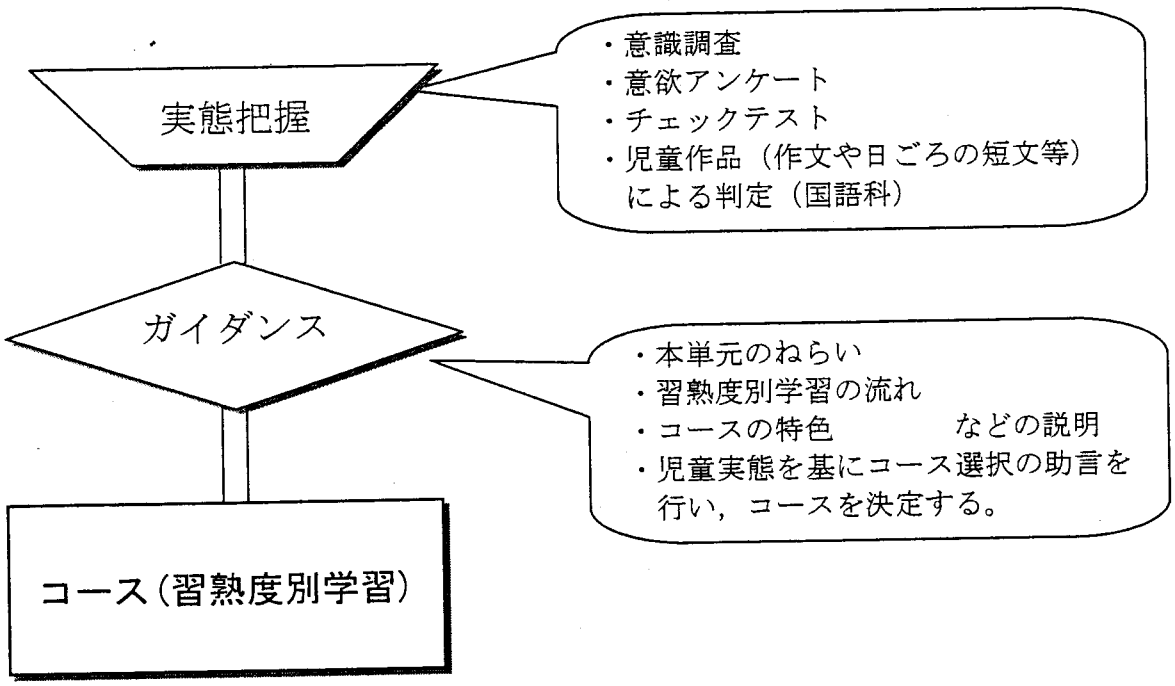
2．実態把握や評価活動を取り入れ，児童一人一人に，よりきめ細やかな指導ができる学習の展開を工夫する。

3．児童一人一人に学習の楽しさ，分かることの充実感，できたことの爽快感を感じさせ，主体的に学ぼうとする意欲や態度を育てる指導のあり方を工夫する。

4．習熟度別指導は，学年段階や教科の中のどのような単元において効果的であるのか，またグループ分けの方法やその課題を明らかにする。

（2）指導方法・指導体制の工夫

習熟度別指導における基本的な展開

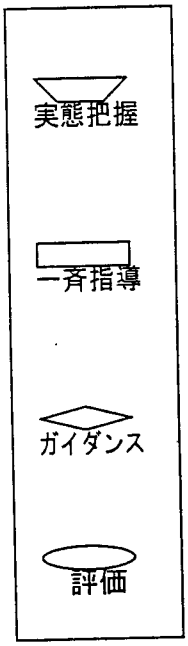
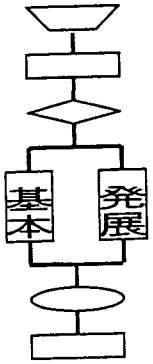
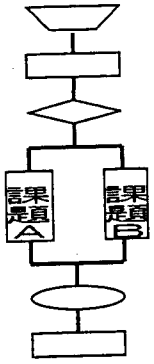
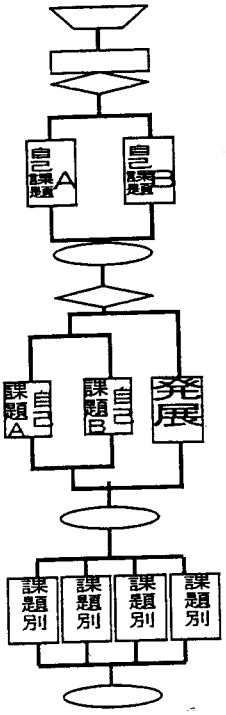


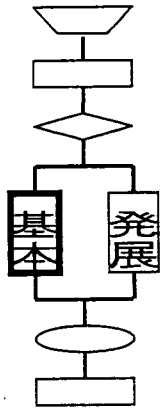
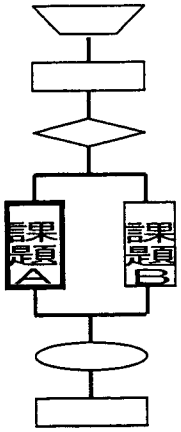
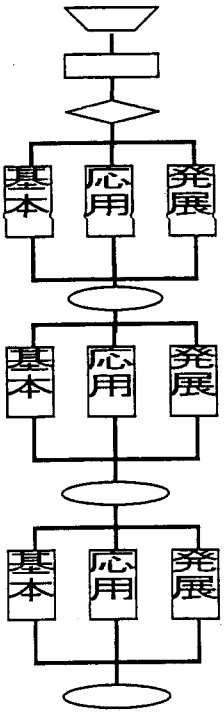
《本校で実施している主なテスト》

- チェックテスト…児童の学力実態を把握するために行っているレディネステスト，小テストなどを総じてそう呼んでいる。

- 単元末テスト　…市販のテスト

本校の少人数指導で実施している主な形態

	実施形態	● 形態と特徴	
1	１クラスに指導者が複数入って指導するもの  	① 習熟の程度に応じた指導 ● 基礎学力を向上させ，児童の学習意欲を高めるために，学力差に応じたグループで指導を行う型。 （第３学年算数科授業「かけ算の筆算（１）」） （第４学年国語科授業「体のふしぎ大発見『体を守る仕組み』」）	
		① 課題や興味・関心に応じた指導 ● 児童が自分の興味・関心をもった学習課題を選択し、一斉指導で学習した内容をふかめたり、追求したりする型。	
		② 習熟の程度に応じながら課題や興味関心に応じた指導 ● 上の①②を複合させた型。 ● 本モデルで述べている自己課題とは、単元を通して児童自身が自分の抱えている課題を把握し、それを自発的・重点的に学習することである。 ● 自己課題を意識することで、より意欲的に、つけたい力を身につけることができると考える。 （第６学年国語科授業「歴史新聞をつくろう」）	

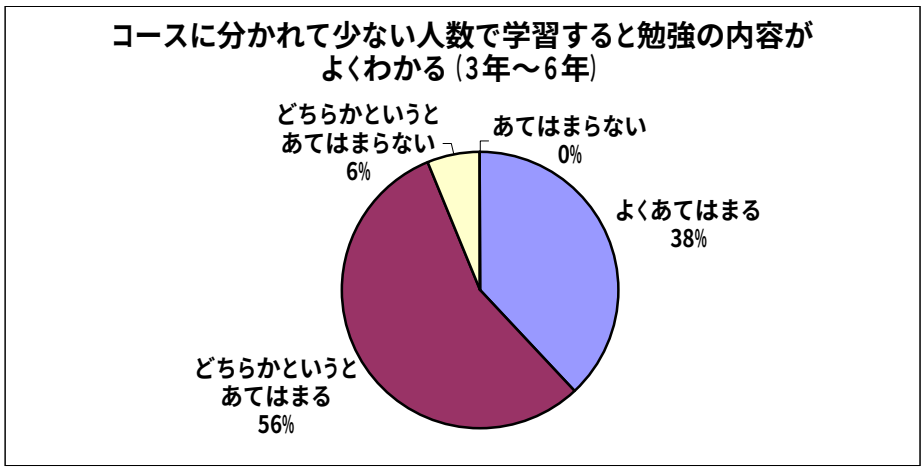
2	１クラスを２コース以上の学習集団に分けて１人の指導者で指導するもの	① 習熟の程度に応じた指導 ● 児童間に学力較差が大きい場合，一斉指導を補う型。 ● １つの学習課題に向かって，２つ以上の方法で解決をしていく。 ● 指導者は，基本コースに重点的につく。 （第２学年国語科授業「おいでよ，ミニ絵本かんへ」）	
		② 課題や興味・関心に応じた指導 ● 基本的な学習内容を徹底させるために，一斉指導を補う形で，コースごとに課題を設けて学習していく型。 ● 重点的に指導したいコースに指導者が多くの時間関わる。 （第１学年算数科授業「たし算（２）」）	
3	２クラスを３グループ以上の学習集団に再編成し３人の指導者で指導するもの	習熟の程度に応じた指導 ● 児童間に学力較差が大きい場合，個々の児童の学習状況に即して指導を展開することができる型。 ● 単元のはじめは各コースに指導者がつき，どの児童もねらいを達成できるよう配慮する。単元の終わりでは指導者が，重点的に指導したい基本コースの児童にしっかり関われるよう，児童一人一人の様子を見ながら状況に応じた協力体制をとる。 （第５学年算数科授業「小数のわり算（２）」）	

習熟度別指導のポイントと留意点

		国語（「書くこと」を中心に）	算数（「数と計算」を中心に）
指導体制	チェックテスト作成上の留意事項	◎ 単元の学習内容に合わせて，既習事項を確認できるような内容にする。 ◎ 指導要領の指導事項に対応させる。（学期に１，２回実施する。）	（単元前） ◎ 既習内容（単元によっては，本単元の学習内容も）のうち，基本的な問題を網羅する。 ◎ 問題数は，少なくする。（１０問以内） ◎ 時間を制限する。（10～15 分以内）
指導方法	コース選択	（低学年）…自分の力だけでは，コースを選択するのが難しいので，指導者の方で考えている。 （中学年）国語…チェックテストと，それまでの児童の作品を考慮しながら指導者が判断している。 算数…チェックテストと自分でコース選択できるようなアンケートから，コース選択を行っている。 （高学年）…児童の希望を考慮しながら，ガイダンス等を通して，各自の習熟の程度に応じたものになるようにしている。	
	単元内でのコース移動	チェックテストによる結果や，児童の希望によりコース間を移動できるようにしている。単元の学習の中でコースを固定化し，理解度別で学習するよりも，自分の学力を知り，自分を高めようとする態度につながると考える。	
	習熟度別指導を実施する時期	◎単元の特質，学級実態にもよるが，単元の中盤で実施することが多い。	◎ 単元の特質，学級実態によって，習熟度別学習を実施する時期を決めている。そのため，単元全体で習熟度別学習を取り入れたり，中盤から終末にかけて取り入れたりしている。
	指導者の配置について	◎ 基礎コースには，なるべく多くの指導者が，児童につくことができるよう配慮し，応用コースの方は，自力学習ができるような環境を整える。 ◎ コースがたくさんありすぎても指導が行き届かないと思われるので，コースの数は，多くても指導者プラス１人までが適切ではないかと考える。	
学習意欲	変容のとらえ方	◎ チェックテスト，ノートへの振り返り，作品などから，変容をとらえる。また，習熟度別指導に対する児童の意識については，全校共通（3 年以上）のアンケートによって定期的に実態を把握し，今後の指導に活かす。	

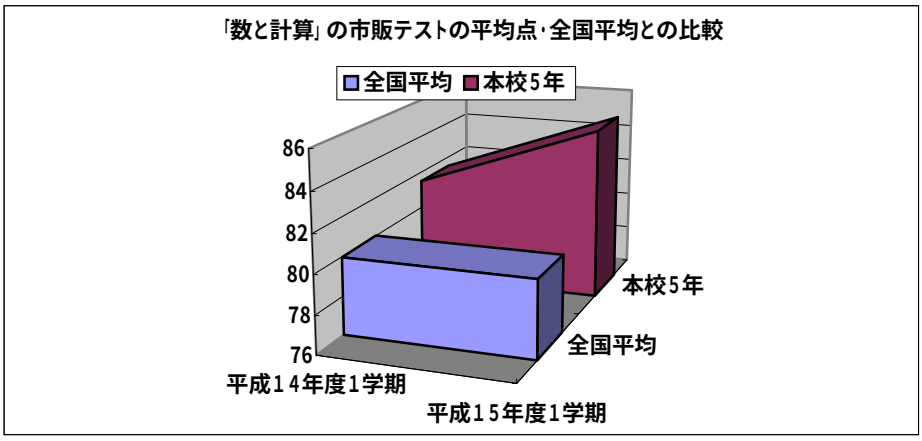
少人数指導実施後の調査結果

☆ 今年度，３年生―１学級３展開，４年生―１学級２展開，５年生―２学級３展開，６年生―１学級３展開のコース別学習に取り組み，次のような結果が得られた。



習熟度別指導実施後の調査結果

習熟の程度に合わせて、コース別に分かれて学習することが児童に「勉強の内容が分かる」という意識につながってきていることがうかがえる。また，学年平均点の上昇が見られ，基礎・基本の定着における個人差が縮まった。



成果・２

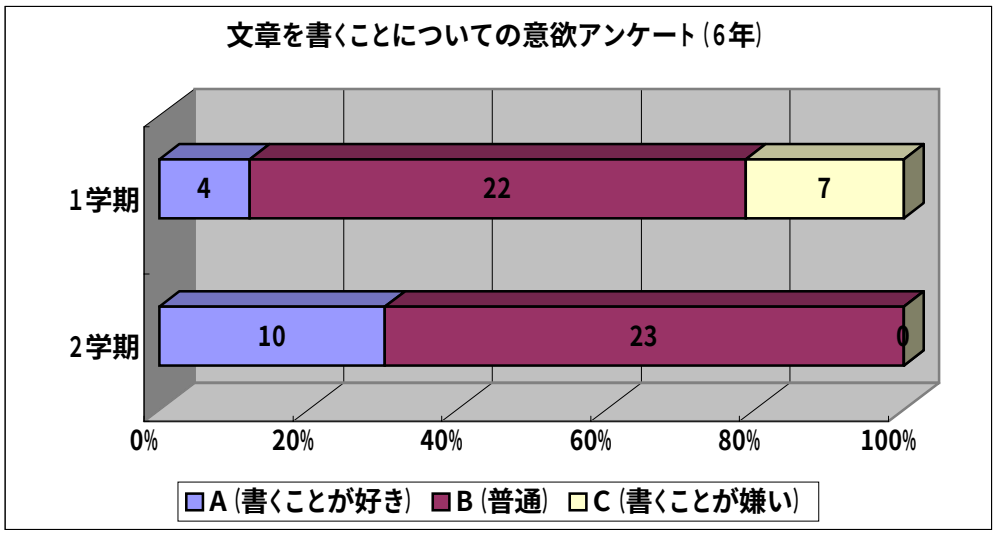
〇国語科，算数科の授業に，書く活動を中心とした自力解決の場を設定したことにより，書くことに対する意欲や既習事項とつなぎ合わせて考えようとする姿勢に変容が見られるようになった。

取り組み

課題解決の場面で自分の考え方を書く。
（自分がなぜそう考えたのか思考の過程がわかるよう，文章や図・絵などでまとめさせる。）

各教科で学習のふりかえりを書く。
（感想を書くだけではなく，既習事項を想起させ，本時の学習内容とつなぎ合わせたり，他の児童の考えと比較したりして書く。）

書く活動を取り入れた自力解決の場を設定した後のアンケート



・文章を書くことに抵抗がなくなり，書く意欲が高まった。

２．今後の課題

〇個に応じた指導をより充実させていくため，多様なコース設定のあり方や，各コースに応じた教材開発を進める必要がある。

☆ 手立て ⇨ 習熟度別指導を行う領域の拡充や学習パッケージの作成。

〇国語科では「書くこと」「読むこと」，算数科では「数学的な考え方」における得点が低い傾向にあり，具体的な手立てが必要である。

☆ 手立て ⇨ 国語科ではまず正確に読み取る力を，算数科では既習事項を上手に活用しながら課題を解決していく力を高めていき，すじ道を立てて考える力を育成していく。

〇児童の関心・意欲を高めることについては，引き続き取り組む必要がある。

☆ 手立て ⇨ 上記の方法などによる，わかる授業の創造と意識アンケートの結果の有効活用。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組み

① 定期的な学力調査の実施（NRT　１学期，CRT　３学期）

※ CRTは，年度内に学級や児童個々の学習状況を把握し，次年度の指導に活かしていくため，実施している。NRTは，学習の成果を全国集団の中における相対的位置で明らかにし，学力水準を把握し，指導の工夫・改善を行っていくために実施している。

② 単位時間内でのチェックテストや単元末テストにより，学級の習得状況を把握するとともに，個の変容をとらえていく。

③ 国語科を重点教科としている学年については，学期ごとに文章を書くことに対する意識調査と文章力判定テスト（自校作成）により，継続的に変容をとらえていく。

④ ３年生以上の児童に対して，学期ごとに習熟度別指導・複数指導に対する意識調査を実施し，意識の変容をとらえていく。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○研究公開について

平成１５年度

日時　　平成１５年１１月７日（金）
場所　　向原小学校
対象　　広島県内教育関係者・本校保護者
テーマ　学びの力を育成する指導のあり方
　　～国語科・算数科における指導体制・指導方法の工夫を通して～

平成１６年度（予定）

日時　　平成１６年６月２５日（金）
場所　　向原小学校
対象　　広島県内教育関係者・本校保護者
テーマ　学びの力を育成する指導のあり方
　　～すじ道を立てて考える力の育成を通して～

○学校のHPに，フロンティアの研究推進に関わるページを作成し，随時更新中。

○本年度の研究について，紀要と指導案集を作成。今後，習熟度別指導を中心に取り組んだ授業について，学習パッケージを作成予定。

○芸北地区協議会において，管内小・中学校に研究の方向性や具体的な取り組みなどについて発表。

・　第１回芸北地区協議会　　７月２９日　　千代田町役場
・　第２回芸北地区協議会　１１月　７日　　向原小学校・向原中学校
・　第３回芸北地区協議会　１２月　９日　　土師ダム研修センター
・　第４回芸北地区協議会　　２月　５日　　芸北地域事務所

資料.1

向原小学校チャレンジプランＨ１５

新たな「教育県ひろしま」の創造

教育改革への５つの重点目標（Ｈ１５年度施策の方向性）

１．基礎基本を徹底（授業改善，知･徳・体の基礎基本）
２．考える力を育成（全国一のことばの教育県ひろしま）
３．夢や目標に挑戦（道徳教育・体験活動・幼児教育の充実）
４．学校を変える（学校評価・人事評価・１０年経験者研修の実施）
５．県民総参加の改革（青年の地域貢献活動の推進・地域の教育力向上）

芸北の教育創造アクションプラン２１

【コンセプト】

いきいきと夢を育む学校づくり

～明るい･温かい･厳しい学校～

１．確かな学力「日々の授業を充実させる」
２．豊かな心の育成「豊かな心」「豊かな人間性」「未来を拓く主体性育成」
３．信頼される学校づくり「中立性」「公開性」「学校評価」
４．生きる力を育む幼稚園教育づくり「中立性」「公開性」「幼稚園評価」
「めばえ」「つながる」「接続」

向原町学校教育スローガン

郷土を愛し，未来にはばたく人づくり

～創造・変革・挑戦～

＜学校教育目標＞

創造とチャレンジ

～意欲をもって行動する子どもの育成～

めざす子ども像

自ら学ぶ子ども　　自ら考える子ども　　自ら行動する子ども

信頼される学校づくり
- 学校経営体制の確立
- 学校公開
- 現職教育の充実
- 学校評価システムの導入
- 人事評価制度の導入

健　康　な　体
- 健康教育の充実
- 基礎体力・運動能力の
- 学校保健委員会の充実
- 体力テスト結果の効果
利用
- 立腰(正しい姿勢)の充

豊　か　な　心
- 道徳教育の充実
- 体験活動の充実
- 家庭・地域の連携
- 教育相談体制の確立
- 朝読書の充実
- 基本的な生活習慣の確

＜学

確かな学力
- 授業改善
（授業研究の充実）
- 指導体制・指導方法の
- 基礎基本の徹底
- 学習意欲の喚起
- 幼小中の連携
- 読書活動の推進

立　　腰　　学習規律の確立　　児童と教職員の信頼関係の構築　　教職員の一体化

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　■１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　■７～１２学級
□１３～１８学級　□１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　■少人数指導　■Ｔ．Ｔによる指導
■一部教科担任制　□その他

【研究教科】　■国語　□社会　■算数　□理科
□生活　□音楽　□図画工作　□家庭
□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無